

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 追分あけぼの会
施設名	きゃんばす東林間保育園
報告者（役職）	勢州谷 裕子（園長）
住所・連絡先	相模原市南区上鶴間4丁目26-4
	☎ 042-701-0771
	E-mail h001hr-sagamihara@akebono-kai.or.jp

○タイトル（保育計画）

小さな自信を積み重ね、子どもの笑顔をいっぱい！

○主な助成備品

平均台、跳び箱、マット、トンネル、バルーン

1. 保育計画策定の目的

「きゃんばす東林間保育園」は、平成27年4月相模原市に開園した定員70名の保育園です。近隣住民の意向により園庭で活動する時間等に制限を受ける中、日々の生活の中で子ども達が室内でも体をいっぱい使って遊び、子ども達の経験の幅を広げ、それぞれの年齢に合った運動機能の発達を促していくため、段階を踏みながら、幼児期に育つ平衡感覚や跳躍力などの身体能力を高めること、活動を通して協調性や達成感そして子どものやる気から自信につながる環境を整えていきたいと考えました。また、探究心をくすぐる運動遊びからはじまり、年長児に至っては小学校への入学準備としての集団行動における運動の実践にも取り組むことができます。この運動共育の実践により、家庭ではなかなかできない、体をいっぱい動かすことの楽しみを知り、すくすく元気に育つことが期待できます。

2. 具体的な実施内容

< 0～2歳児（トンネル・跳び箱・マット） >

（トンネル）「ハイハイ」をしないまま、歩き始める赤ちゃんもいますが、手の平をついて体を支え、下半身の筋肉をつけ体幹を鍛えるという意味でも「ハイハイ」はとても大切です。トンネルくぐりは、「ハイハイ」を取り入れながら運動機能を育てる遊びとしてとても良いです。

あらかじめスタートとゴールを決め、一方通行に進み、トンネル内で子ども同士がぶつからないように気をつけながら「ハイハイ」をしてくぐる。保育士と一緒にいき、声かけをすることで、怖がることなく楽しみながらトンネルくぐりを行えました。また、2歳児になるとどうやって通ったらぶつからないでくぐるができるかなど考えながら取り組んできました。

(跳び箱) 跳び箱では、山に見立てて「ハイハイ」で登ったり、1歳児は、跳び箱に手をつき足を一步ずつ出して上に乗る、保育士が手を取りジャンプをしてマットの上に降りるなどして遊び、登ったり降りたりすることで、腕や脚の曲げ伸ばしの運動が行え、腕力・脚力の発達を促しました。



< 2～5歳児 (平均台) >

マットの上に高さの違う平均台を並べ、平均台の下をくぐる、足をしっかり上げてまたぐ、手を広げバランスを取りながら前歩き、まっすぐ歩けるようになったら横歩きで渡るなどマット運動と同様に平衡感覚やバランス感覚運動として、また注意力や集中力の向上にも繋げていけるように行いました。平均台・マット・跳び箱などを組み合わせたサーキット形式にし、楽しんで繰り返し運動遊びができるようにもしました。



< 3～5歳児 (跳び箱・マット・バレーン) >

(跳び箱) 跳び箱は、低い段から助走をつけずにその場でかえるのように跳び乗るところから始め、慣れてきたら助走をつけ跳び箱の上に乗るジャンプで降りる。踏み越し跳び・

支援でまたぎ乗り・またぎ下り・数歩の助走から両足で踏み切り・両手をついて両足で跳び乗りジャンプで跳び下りるなど、腕でしっかり支えリズムよく行なうことで、跳躍力や瞬発力の向上・挑戦する勇気もてるよう個々のペースで段を増やし、楽しみながら行なっていました。



(マット) マット運動は、ルールのある遊び(マットからマットに移動・陣地として等)から使用し、マットの上で横になり頭の上で手を合わせゴロゴロ転がる丸太転がりや前転がりなど、マットの幅から落ちないように転がり、方向に目標をもち回転することで、他の遊具にはない転がる動きが中心となり、柔軟性や平衡感覚・足腰や全身を使った運動・バランス感覚運動をして行いました。

(バルーン) バルーンは、一人で行うことはできず、大人数で協力して行うことで楽しくなる遊びです。バルーンを張ったり、張りながら歩く、両手で持ちながら左右に揺らす「洗濯じゃぶじゃぶ」、寝転がり布団のように掛ける「お昼寝」、バルーンを膨らませ中に入る「おまんじゅう」、中央に保育士が入り持ち上げる「メリーゴーランド」、中央にカラーボールを乗せ引っ張り飛ばす「花火」など、音楽のリズムやタイミング・スピードに合わせて行っていました。また、バルーンを運動会の種目の1つとして3～5歳児合同で行い、保護者の方々に観ていただきました。



3. その成果と評価

トンネル・マット・跳び箱・平均台の運動遊具を使いしっかりと体を動かすことで、腕力や脚力が養われ、バランス力も身につき、今まで子ども達に多く見られていた転倒が少なくなり、怪我をすることが少なくなってきました。

バルーンは、運動会という大きな舞台で行い、保護者の方々から大きな拍手をもらい、やり遂げた達成感が大きな自信へと繋がりました。また、集団で行うことで協調性が高まり、合図による動作で反射神経、音に合わせて行うことでリズム感も養うことができました。

4. 今後の課題と展望

今回購入した運動遊具は、今後も継続的に使用し、職員一人ひとりが各年齢の発達や成長に合った使い方を考え、日常の保育計画の中に組み込み、子ども達の運動能力の向上へと繋げていけるようにし、やり遂げた達成感や自信をたくさん経験できるようにしていきたい。また、3～5歳児で使用する機会は多く、子ども達の成長する姿も充分に見えつつあるが、0～2歳児にもどのように使用し発達を促していくのか、職員全員で保育計画を見直し、全年齢の子どもが楽しみながら運動遊びを行っていけるようにしていきたいと考えています。

以上